

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 慶應サマープログラム（KSP）

クォーター制の北米の学生が参加しやすい日程に設定し、非協定大学からの留学生が増加した。全体では、のべ443名が受講。



○ 短期留学プログラム（受入れ・派遣）

1月末から2月に予定していた復旦大学向け日本語・日本文化講座、3月に予定していた復旦大学での春季研修は、COVID-19感染拡大のため中止となった。

○ 英語によるプログラム・学位コース

国内最大規模の27のダブルディグリープログラムを実施。最新の実績で、修了者75名（2018年度末。2019年度データ集計中）。<https://www.keio.ac.jp/ja/academics/international/double-degree/>

主な連携先：【韓国】延世大学 【中国】北京大学、復旦大学 【インドネシア】リンケージ・プログラム（バンドン工科大学、ガジャマダ大学、プラビジャヤ大学） 【フランス】パリ政治学院、エセック経済商科大学、エコールサントラルグループ（リール、リヨン、マルセイユ、ナント、サントラルスベレック） 【ドイツ】アーヘン工科大学、ミュンヘン工科大学 【イタリア】ポッコロニ大学、ミラノ工科大学 【米国】ワシントン大学 【世界のビジネススクール】CEMS MIM（国際経営学修士）プログラム

○ 世界展開力強化事業 Japan-EU高度ロボティクス マスタ プログラム（JEMARO）

令和元年度 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～日-EU戦略的高等教育連携支援～」に、理工学研究科の提案「Japan-EU高度ロボティクス マスタ プログラム(JEMARO)」が採択された。パートナー大学は、エコール・サントラル・ナント（フランス）、ジェノア大学（イタリア）、ワルシャワ工科大学（ポーランド）。

○ 主な新規連携協定

6月 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート（KGRI）とグルノーブル・アルプ大学との研究協力協定
 6月 法務研究科とベトナム国家大学ホーチミン市経済・法科大学とのダブルディグリー協定
 10月 南京師範大学との包括協定

ガバナンス改革関連

○ グローバル・アドバイザー・カウンシル（GAC）

塾長がGACメンバーの海外の大学長と大学運営・連携について意見交換。

8月・10月 プリティッシュ・コロンビア大学
 11月 延世大学
 1月 シンガポール国立大学



Santa J. Ono @ubcprez
 Very honoured to discuss collaborations with Keio University President Akira Haseyama and his delegation today.
 午前9:50 · 2019年8月15日 · Twitter for iPhone

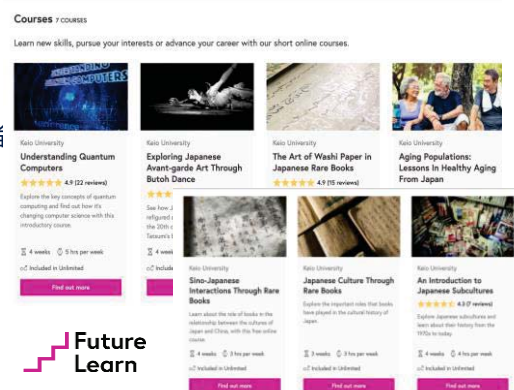
○ 協生環境の推進

9月 すべての人々が安心して学び、働けるキャンパスの実現を目指して、「協生環境推進憲章」を制定。
 12月 女性の活躍推進を目的とした世界的なキャンペーンである「30% Club」に参加。

教育改革関連

○ FutureLearn

FutureLearnは、ソーシャルラーニング（学習者同士の学び合い）を重視する、無料のオンライン教育プラットフォーム。2019年度の慶應義塾大学の開講数は、計7コース（昨年度比+1コース）、参加登録者数は、12,806名となった。



○ GICセンター
 (Center for Global Interdisciplinary Course)

国際的かつ学際的な人材育成のためのプラットフォームであるGICセンターでは、英語（外国語）による開講科目が400を超え、2019年度履修者数が1,602名（昨年度比+45名）となった。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 世界大学ランキング

国際連合の持続可能な開発目標、SDGsを指標として大学の社会への貢献度を測る「THE University Impact Rankings 2019」において、世界第91位を獲得した。
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2019/4/5/27-52343/>



クラリベイト・アナリティクス社が毎年選出するHighly Cited Researcher（21の科学分野における被引用回数が上位1%に入る論文を複数発表している研究者）として、2019年度のHCRに慶應義塾大学の3名の研究者が選出された（世界の約60カ国4,000名を選出。日本からは90名）。

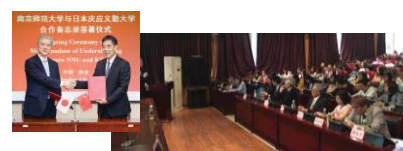
○ クロス・アポイントメントによる海外副指導教授制度

海外副指導教授制度により、海外の研究者89名を任用。大学院生の研究指導・論文指導や教育に携わった。

■ 国際的評価の向上につながる取組

○ 国際会議・国際イベントの開催

10月9日、南京師範大学にて長谷山塾長による「慶應義塾と中国」と題する講演会を実施。大学院生を中心に約200名の参加があり、質疑応答が活発に行われた。



10月14日、「第10回 APRU Population Aging Conference（人口高齢化国際会議）」をAPRU（環太平洋大学協会）と共催。WHO（世界保健機関）、文部科学省、厚生労働省が後援した。環太平洋地域をはじめとする国内外の大学などから若手研究者など100名を超える参加者があり、優秀論文の表彰、ポスターセッション、パネルディスカッションなどが行われた。本学SGU事業「長寿」クラスターの活動の一環。会議レポートは以下。



https://www.keio.ac.jp/en/about/global/apru_population_aging_conference_report.pdf

11月23日、ロンドンにて、ブリティッシュカウンシルとの共催で、「第9回 Experience Japan Exhibition 2019」（日本留学フェア）を実施した。各大学ブースでの個別相談と並行して、日本留学の基礎知識、元留学生の体験談、短期留学・研究助成プログラム、日本での就職・インターンシップの機会などを紹介するセミナーも実施した。参加者約550名。（写真下）



12月11日・12日、第9回サイバーセキュリティ国際シンポジウム「多国間経済を支える信頼できるデジタル社会」を主催。「多国間」の議論に焦点を当て、日本、米国、英国、EU、イスラエル、オーストラリア等の大学や企業から有識者ならびに関係者が一堂に介し議論した。本学SGU事業「安全」クラスターの研究者が中心となって企画。（写真右）



■ 自由記述欄

○ U7+ Allianceに加盟

2019年7月のG7パリサミットに合わせて開催された、U7大学長サミットに長谷山塾長が参加した。慶應義塾大学は、ここで新たに創設された国際大学連合「U7 + Alliance」に加盟した。気候変動や社会の分断といった、世界が直面する課題について議論し、G7への政策提言など共同で行動を起こすことを目的とするもので、G7諸国を中心に、18カ国・45を超える大学が参加している。COVID-19感染拡大以降は、各国の大学の役割について、オンライン上で活発な議論が続いている。

